

働く犬のワンダフルな「お仕事ブック」を作ろう 「もうどう犬の訓練」

本単元で育成する資質・能力

主体性・思考力

単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領国語第3学年及び第4学年「C読むこと」の指導事項「イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。」
「エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。」の内容を受けて設定したものである。本単元では、学習指導要領の言語活動例(2)
「オ 必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読むこと。」を単元を貫く言語活動として位置付け、総合的な学習の時間に福祉体験の指導に来てくださった海田町社会福祉協議会の方に報告することを目的とし、必要な情報を得るために教材文や関連する様々な文章を併せて読む学習を行う。自分が知りたい働く犬の情報を「お仕事ブック」にまとめることで、目的に応じて本を読み、中心となる文や必要な言葉をとらえたり要約したりする力を身に付けることをねらいとしている。

児童にとって犬は、ペットとして人間に可愛がられる身近で親しい存在である。教材文「もうどう犬の訓練」では、ペットとは異なる人間のために働く犬として盲導犬を取り上げている。このような働きができるようになるまでには、犬の特長を生かしたり、おさえたりする厳しい訓練を経なければならないことが「始め」「中」「終わり」の構成で説明されている。「始め」には盲導犬の定義、「中」には訓練の様子・盲導犬にふさわしい心構え、「終わり」には一人前になった盲導犬について書かれているが、指示語や接続語に着目することによって、段落のまとまりを理解しやすい。また、盲導犬になるまでの訓練について、その内容や意味を理解しながら読み進められるようになっていて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、要約することに適した教材である。

さらに並行読書を行うことで、児童は総合的な学習の時間の福祉体験と結び付けながら、自分が興味をもった働く犬について知りたいことを意欲的に読み取っていくことが期待される。自分が選んだ犬の「お仕事ブック」を作ることで、教材文での読みを生かし、くわしく知りたいと思ったことに必要な情報を選択し、中心となる言葉や文に着目して要約する力が身に付くと考える。

- 本学級の児童は、4月に行った「海田町標準学力調査」において、「説明文の読み取り」問題では、「内容の大体を読むことができ、説明することができる。」の通過率は80%と全国平均の67.4%と比べ高いが、「時間的な順序、事柄の順序を考えながら、内容の大体を読むことができる。」の通過率は61.7%で全国平均の65.2%と比べ低かった。このことから、内容の大体を読んで理解することはできるが、時間や事柄の順序に従って内容を押さえて読む力が十分身に付いていないということが分かる。

1学期に学習した説明文「自然のかくし絵」では、繰り返し出てくる言葉や題名とつながりがある言葉を手がかりにそれぞれの段落に書かれている内容を読み取った。それによって説明的文章が、「始め」には話題提示、「中」には問いとその答え、「終わり」には筆者のまとめで構成されていること、「始め」と「終わり」が対応していることに気付くことができた。段落ごとに書かれている昆虫の身の隠し方や保護色について表にまとめ、整理していくことで、興味をもって読み取っていくこともできた。しかし、中心となる言葉が見付けられなくて、教科書に書かれている文をそのままノートに書

き写している児童もいた。このことから、段落ごとに書かれている内容を中心となる語や文をとらえて読み取り、まとめることには課題がみられるといえる。

○ 主体的に学ぼうとする「課題発見・解決学習」の単元開発

指導に当たっては、**課題の設定**の段階においては、総合的な学習の時間の点字体験、手話体験、車いす体験を想起させながら、児童の興味や関心を高め、目的意識をもって学習に取り組むようにしたい。単元の導入では、盲導犬のほかにも人間のために働く犬の例を挙げて児童の興味を喚起する。そして、各自の福祉体験と関わらせながら、働く犬についてもっと知りたい、調べたいという意欲を高める。単元のゴールとして、働く犬の「お仕事ブック」を作り、海田町社会福祉協議会の方に自分たちが調べたことを報告するという学習活動を設定する。3年生は海田町社会福祉協議会から、1学期の総合的な学習の時間に、町内の公共施設や名所をたどる「お散歩すごろく」を借りて海田町の自慢さがしの学習に取り組んだ。2学期は、福祉体験を通して誰もが暮らしやすい町づくりを考える学習に取り組んでいる。これまでお世話になった海田町社会福祉協議会の方に、今度は自分たちが調べたことを伝えるという目的をもたせることで主体的に学ぼうとする意欲を高めたい。

情報の収集の段階では、盲導犬の仕事をまとめるために教材文を「始め」「中」「終わり」に着目して読み、大まかな段落相互の関係をとらえる。そして、中心となる言葉や文に着目して教材文の情報を収集、整理し、盲導犬の「お仕事ブック」を作っていく。ここでは、元の文章から中心となる言葉を見付け、その表現を生かしてまとめたり、中心となる文を見付け、もとにしてまとめたり、「こうした」「しかし」「また」「さらに」などの指示語や接続語に着目してまとめたりする学習活動を行う。これらの経験を通して、目的や必要に応じて要約する力を身に付けさせたい。**整理・分析**の段階では、並行読書をしていた働く犬について書かれている本の中から、自分が紹介したい犬を選び、働く犬の「お仕事ブック」を作成するために必要な情報をカードに書いていく。その際、第1次で学習したことを関連付けてどんな視点でカードを書くか「お仕事ブック」にのせる内容を考える。そして、カードを分類・整理し、「お仕事ブック」の構成を考えさせることで必要な情報は何かを考え、選択する力を身に付けさせたい。限られた分量の中に自分が知りたいと思った犬の情報をまとめるためには、元の文章から中心となる文や必要な言葉をとらえ、意味のつながりに注意して内容を整理することが必要となる。このように「お仕事ブック」を作ることが、結果的に要約する力を付けることになる。

まとめ・創造・表現の段階では、調べて分かったことの中から必要な情報を取り出し、自分が紹介したい犬の「お仕事ブック」を作成する。その時に、グループで交流することで、どんな仕事をするのか、そのためにどんな訓練をするのか、働く犬について伝えたいことが要約されているのかを自分たちで確かめながら作成していけるようにする。**振り返り**の段階では、海田町社会福祉協議会の方の感想を聞き、「お仕事ブック」を作成することで身に付いた力を明確にし、自己の見方や考え方の高まりを感じることができるようさせたい。

○ 「学び合い」における協働的な思考の場の工夫

この単元で身に付けさせたい資質・能力は、くわしく知りたいことを調べるために本を読み、主体的に情報を集める力、必要な情報を比較・関連付けながら考え、選択する力である。そのために文章構成を考える場面では、思考ツールの構成シートを使う。

自分が興味をもった働く犬について調べたことを伝える「お仕事ブック」を作るために、必要な情報を整理・分析する場面では、選んだ本の中から中心となる言葉や文を見付け、カードに書いていく。1枚のカードには、1つのことだけ書くようにする。次に「お仕事ブック」にのせる内容と関連付けてカードをまとまりごとに分けて交流する。

まとめりに分けたカードの内容を「お仕事ブック」にどのようにのせていくか、「始め」「中」「終わり」に分けて文章構成を考える場面では、構成シートを使い、目に見える形で整理する。構成シートは自分が紹介したいと思った犬についての事実を整理し、順序立てた文章構成にまとめるための手立てとする。その後、いろいろな犬について調べている友達とグループで交流することによって、一人では必要な情報を十分集められなかった児童も、新しい情報に出会うことが期待できる。集めた情報を比較したり、グループで話し合ったりすることで、相互に学び合い深め合うことができる。「お仕事ブック」の作成中にもお互いに交流する場面を設け、アドバイスし合うことで、協働的に学ぶよさを実感させたい。

単元の目標及び内容について

- 働く犬に関心をもち、知りたい犬について書かれている本を進んで読み、調べようとする。
【関心・意欲・態度】
- 「お仕事ブック」を作るために、中心となる言葉や文を手がかりに段落相互の関係や文章の組立てを考えて読むことができる。
【読むこと イ】
- 文章の要点や細かい点に注意しながら言葉を補ったり書き換えたりして、働く犬について調べたことを要約することができる。
【読むこと エ】
- 指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うことができる。
【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(ク)】

単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
【単元を貫く言語活動】 働く犬について紹介する「お仕事ブック」を作る。		
働く犬に関心をもち、知りたい犬についての本を進んで読み、調べようとしている。	目的に応じて、中心となる語や文を手がかりに段落相互の関係や文章の組立てを考えて読んでいる。 (イ) 文章の要点や細かい点に注意しながら言葉を補ったり書き換えたりして調べたことを要約している。 (エ)	指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使っている。 (イ(ク))

指導と評価の計画

全 12 時間（本時 8 / 12 時間）

次	時	学習活動	評価				
			関	読	言	評価規準	評価方法
		総合的な学習の時間 ○福祉体験の活動を行い、高齢者や障害者の暮らしと支援する仕組みを知る。					
一	1	課題の設定(1) ○盲導犬以外にも人間のために働く犬がいることを知り、働く犬について紹介する方法を話し合う。 ・「お仕事ブック」を作り働く犬を紹介することを確認し、学習の計画を立てる。	○			・働く犬に関心をもち、読みたい本を選んで進んで読もうとしている。	行動観察 ノート

次	時	学習活動	評価				
			関	読	言	評価規準	評価方法
一	2	情報の収集（５） ○盲導犬の仕事をまとめるために、教材文を「始め」「中」「終わり」に着目して読む。			○	・指示語や接続語を手がかりにして、段落相互の関係をとらえようとしている。	行動観察 ノート
	3 ・ 4	○盲導犬になるための二つの訓練について「お仕事ブック」に要約する。		○		・中心となる文と補足する文とを比較したり、写真と文を関連付けたりして、文章を読んでいる。	行動観察 作品
	5	○盲導犬にふさわしい心構えについて「お仕事ブック」に要約する。 ・指示語や接続語に着目し、要約する。		○		・指示語や接続語の役割に注目して、文章を読んでいる。	行動観察 作品
	6	○これまでの学習をもとに盲導犬の「お仕事ブック」を仕上げ、友達と読み合う。		○		・教材文を要約し、「お仕事ブック」にまとめている。	行動観察 作品
二	7	整理・分析（２） ○紹介したい働く犬について、選んだ本の中から必要な情報をカードに書く。 ・どういう仕事をするのか。 ・どんな訓練をするのか。		○		・読んだ本の中から必要な情報を選ぼうとしている。	行動観察 カード
	8	○カードを分類・整理し、「お仕事ブック」の構成を考える。 【本時】		○		・段落相互の関係をもとに「お仕事ブック」の構成を考えている。	行動観察 シート
	9	まとめ・創造・表現（３） ○自分が紹介したい犬の「お仕事ブック」を作る。 ・調べて分かったことを要約し、まとめる。		○		・元の文章の構成や表現を生かして要約し、まとめようとしている。	行動観察 作品
	10	○「お仕事ブック」をグループで交流し、読み合う。		○		・お互いの「お仕事ブック」を比較しながら読み合っている。	行動観察 作品
	11	○交流したことをもとに「お仕事ブック」を推敲し、仕上げる。		○		・交流したことを生かして要約し、まとめようとしている。	行動観察 作品
	12	振り返り（１） ○単元全体を振り返り、学習活動の自己評価を行う。 ・これからの学習で生かしていけることはないか考える。		○		・学習したことをこれからの学習に生かそうとする意欲をもっている。	行動観察 ノート

本時の学習

(1) 本時の目標

- 段落相互の関係をもとに、働く犬を紹介する「お仕事ブック」の構成を考えることができる。

(2) 本時の評価規準

- 段落相互の関係をもとに、働く犬を紹介する「お仕事ブック」の「始め」「中」「終わり」の構成を考えている。

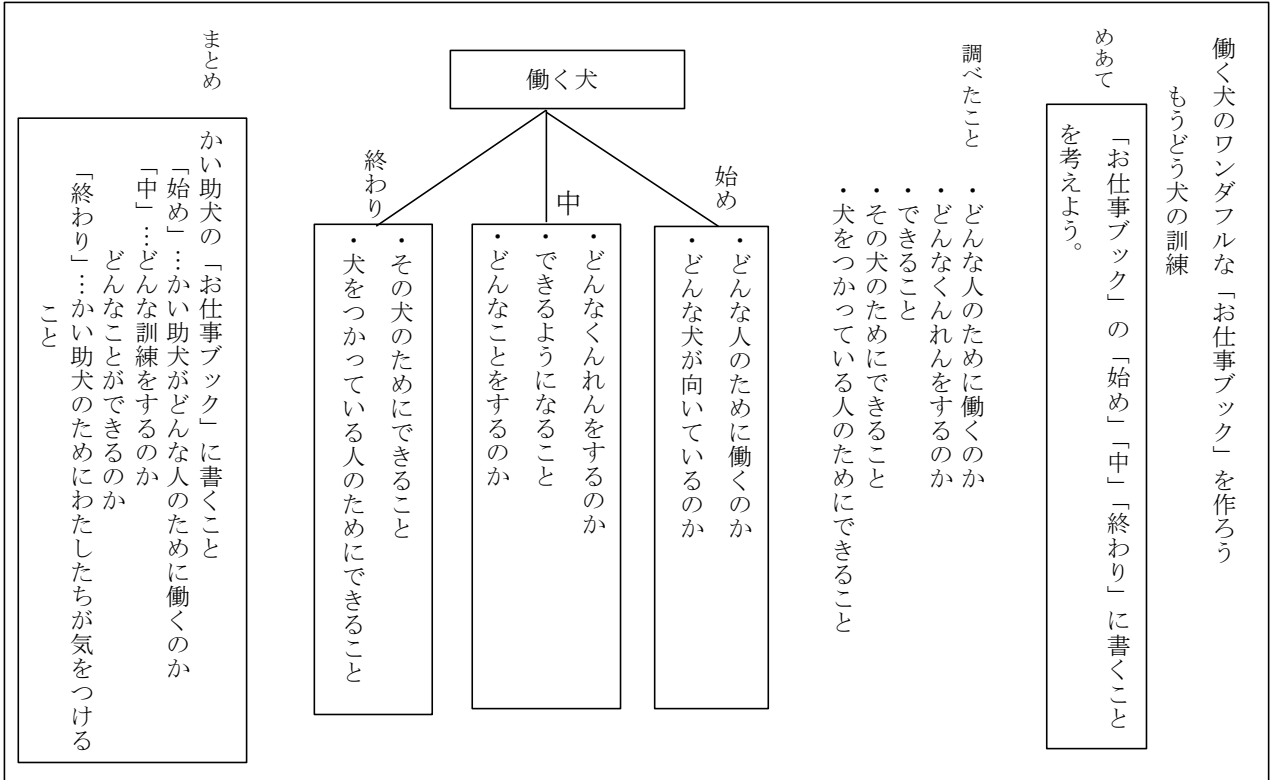
【読む能力】

(3) 本時の学習展開（8時間目／全12時間）

学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の反応 □思考の場の工夫	◇指導上の留意事項 ★めざす児童の姿 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準〔観点〕 (評価方法) ◎本時で付けたい力 ☆育成したい資質・能力
1 前時までの学習を振り返り、本時の課題を確認する。	◇前時までの学習を想起させ、自分たちが調べた働く犬を紹介する「お仕事ブック」の作り方を考えていくことを確認する。	
めあて 「お仕事ブック」の「始め」「中」「終わり」に書くことを考えよう。		
2 集めた情報を分類・整理する。 ○これまでに書いたカードをまとまりに分けましょう。 ○どんなまとまりに分かれましたか。(分類の視点) ・どんな人のために働くのか ・どんな訓練をするのか ・できること ・その犬のためにできること ・犬を使っている人のためにできること	◇前時までに書いたカードを使い情報を整理させる。 ◇紹介したい情報を同じまとまりに分類する。 ◆分類できない児童には、盲導犬の「お仕事ブック」のページと対比させながら、自分のカードを分類させる。	
3 「お仕事ブック」の構成を考える。 ○「お仕事ブック」の「始め」「中」「終わり」にのせることを考えましょう。	◇それぞれのまとまりが、自分が紹介したい犬ではどれにあたるか考えさせる ◇必要に応じて、カードを並べたり移動させたりしながら、構成を考えさせる。 ◆自分の力では構成が考えられない児童には、盲導犬の「お仕事ブック」の構成を例にして、段落相互の関係や内容を考えさせる。	☆情報を分類し、必要な情報を順序立てて考えている。

<p>学習活動</p> <p>○主な発問</p> <p>・予想される児童の反応</p> <p>□思考の場の工夫</p>	<p>◇指導上の留意事項</p> <p>★めざす児童の姿</p> <p>◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て</p>	<p>評価規準〔観点〕</p> <p>(評価方法)</p> <p>◎本時で付けたい力</p> <p>☆育成したい資質・能力</p>
<p>4 全体で交流する。</p> <p>○どんな組立てにしましたか。</p> <p>・「始め」には、どんな人のために働くのかを書く。</p> <p>・「中」には、どんな訓練をするのか、どんなことができるようになるのかを書く。</p> <p>・「終わり」には、その犬のためにできること、犬を使っている人のためにできることを書く。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>□思考の場の工夫 構造化する</p> <p>自分が集めた情報を、段落相互の関係を考えながら、「始め」「中」「終わり」に構成する。</p> <p>(構成シート)</p> </div> <p>5 本時の学習をまとめる。</p> <p>○どんな「お仕事ブック」になるかまとめましょう。</p>	<p>◇「お仕事ブック」を作る活動を意識して、「始め」「中」「終わり」を明確にして発表させる。</p> <p>◇「始め」「中」「終わり」をそれぞれ比較することで、構成の根拠を明確にさせる。</p>	<p>◎段落相互の関係をもとに、働く犬を紹介する「お仕事ブック」の「始め」「中」「終わり」の構成を考えている。〔読む能力〕(行動観察・構成シート)</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>★めざす児童の姿</p> <p>私は、介助犬の「お仕事ブック」を作ります。</p> <p>「お仕事ブック」の「始め」には、介助犬がどんな人のために働くのかを書きます。「中」には、どんな訓練をするのか、そしてどんなことができるのかを書きます。「終わり」には、介助犬のために私達が気をつけることを書きます。</p> </div>	<p>◇次時は、「お仕事ブック」をつくる活動に取り組んでいくことを伝える。</p>	

(4) 板書計画



〈参考〉 本時で使用する思考ツール

(構成シート)

